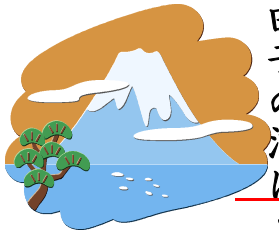
短歌に親しもう

年　組　番　名前

◇　①から③の短歌について、問題に答えましょう。

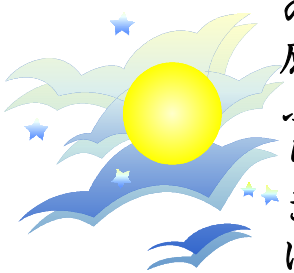
## ①田子の浦にうちいでてみれば白たえの富士の高嶺に雪はふりつつ



山部赤人

田子の浦の浜べを歩いてきて、けしきがよく見えるところに来てみたら、真っ白な富士山の高いところに、雪がふり続いていた。

## ②天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山にいでし月かも



阿倍仲麻呂

大空をあおいではるか遠くの空を見ると、月が出ている。あの月は、ふるさとの春日にある三笠山に出ている月と同じなのだろうなあ。

## ③向日葵は金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ

前田夕暮

ひまわりは金の油をあびたようにかがやいてゆらりと高く立っている。後ろに見える太陽が小さく見えるほどだ。

（一）リズムよく読めるように、②と③にも、①のように四カ所に区切る線を書きこみ、音読しましょう。

（二）それぞれの歌をよんだ時の気持ちを考え、番号を書き入れましょう。

| 番号 | 短歌を作ったときの気持ち・思い |
|---|---|
| | 植物のたくましさや力強さにおどろく気持ち。 |
| | ふるさとをなつかしく思い出す気持ち。 |
| | 目の前に見えるけしきの大きさ、美しさに感動する気持ち。 |

# 短歌に親しもう（答え）

（一）

| | |
|---|---|
| ② | 天の原（あまはら）ふりさけ見れば春日（かすが）なる三笠（みかさ）の山にいでし月かも |
| ③ | 向日葵（ひまわり）は金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ |

（二）

| 番号 | 短歌を作ったときの気持ち・思い |
|---|---|
| ③ | 植物のたくましさや力強さにおどろく気持ち。 |
| ② | ふるさとをなつかしく思い出す気持ち。 |
| ① | 目の前に見えるけしきの大きさ、美しさに感動する気持ち。 |